

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野斎場改修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	衛生施設室				款	4	新規or継続	継続事業
	係					項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	8	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	墓地埋葬等に関する法律、 佐野市火葬場条例、佐野市 火葬場条例施行規則		開始年度	R5	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野斎場の火葬設備等の機能を維持するために適切な改修を行う。
------	--------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野斎場の安定した稼働を維持し、適正な運営を実施する。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		修繕件数（大規模な故障）	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		施設開場が出来なかった日数	日	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		佐野斎場火葬停止件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	佐野斎場の火葬設備等の機能維持に伴う工事請負費 ・佐野斎場火葬設備修繕工事：12,870千円 【内容】火葬3号炉と5号炉の主燃炉側壁セラミック及びN煉瓦一部交換、炉内台車耐火物交換、火葬1号炉と3号炉の主燃バーナーコンパスター及びフレームコン交換、断熱扉用電動チェーンブロック更新、火葬設備全体のオイル配管機器及びオイルコンパウンドセット更新、動力及び制御盤内計装機器交換等の修繕工事を実施した。 (※事業費については、令和5年9月まで佐野地区衛生施設組合で運営していたため、予算構成が佐野市と違うことより令和4年度は未記入、令和5年度は10月からの半年分を記入。)	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		佐野斎場の開場日数	日	302	303	305	300
		佐野斎場火葬件数	件	1,652	1,466	1,363	1,173
		事業費計	千円	0	11,604	25,848	12,870
		一般財源	千円		11,604	25,848	0
		特定財源（国・県・他）	千円		0	0	12,870
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	・大規模な故障等による稼働停止も無く、安定した稼働を維持し、適正な運営が出来ている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		修繕件数（大規模な故障）	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		施設開場が出来なかった日数	日	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		佐野斎場火葬停止件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	3指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	3指標
	効果は変わらない指標数	3指標		未達成	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果は変わらない			
	費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

火葬場は市民生活に必要不可欠な施設であり、災害時を含め、その機能を絶えず安定的に維持していく必要があり、引き続き、施設の状態を確認しながら運営管理に努める。 また、工事の時期が火葬場の繁忙期と重なるため、時期の前倒しが可能か検討する必要がある。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td>火葬炉設備など重要な設備に関して、年次計画をたて、可能な限り火葬場の閑散期に耐火物の交換等の工事や定期的な補修工事を行い、引き続き、設備や建物の状態、今後の火葬状況の推移を注視していく。</td></tr></table>	取組説明	火葬炉設備など重要な設備に関して、年次計画をたて、可能な限り火葬場の閑散期に耐火物の交換等の工事や定期的な補修工事を行い、引き続き、設備や建物の状態、今後の火葬状況の推移を注視していく。
取組説明	火葬炉設備など重要な設備に関して、年次計画をたて、可能な限り火葬場の閑散期に耐火物の交換等の工事や定期的な補修工事を行い、引き続き、設備や建物の状態、今後の火葬状況の推移を注視していく。		

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	火葬場指定管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	衛生施設室				款	4	新規or継続	継続事業
	係					項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	8	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	墓地埋葬等に関する法律、 佐野市火葬場条例、佐野市 火葬場条例施行規則		開始年度	R5	実施方法	指定管理者
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	火葬場（佐野斎場、葛生火葬場）の設置目的をより効率的・効果的に達成し、市民サービス向上を図るため、指定管理者による管理を行う。
------	---

（2）目的

目的 （本事業によって成し 遂げたい 状態）	火葬場（佐野斎場及び葛生火葬場）の施設を指定管理者による運営管理により、市民サービスの向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		苦情件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		施設開場が出来なかった日数	日	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		佐野斎場火葬停止件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		葛生火葬場火葬停止件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に 行った主な活 動内容）	・佐野斎場及び葛生火葬場の指定管理者 ：五輪・日本環境整備・環境整備グループ 火葬に関する業務、火葬場内の施設の提供に関する業務 霊柩自動車の運行に関する業務 火葬場の利用の許可に関する業務 火葬場の施設及び付属設備の維持管理に関する業務 ・指定管理者の監視、指定管理者への指導、助言 ・指定管理者の再選定業務 （※事業費については、令和5年9月まで佐野地区衛生施設組合で運営していたため、予算構成が佐野市と違うことより令和4年度は未記入、令和5年度は10月からの半年分を記入。）	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		火葬場の開場日数	日	302	303	305	300
		2 施設の火葬件数	件	2,330	2,076	1,951	1,712
		事業費計	千円	0	44,642	93,575	97,255
		一般財源	千円		44,624	93,541	97,223
		特定財源（国・県・他）	千円		18	34	32
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	・火葬場（佐野斎場及び葛生火葬場）における苦情も即時対応し、施設の開場が出来なかったことや火葬停止も無く、運営管理が適切に行われている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		苦情件数	件	6	3	4	5	効果が下がった	×
		施設開場が出来なかった日数	日	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		佐野斎場火葬停止件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		葛生火葬場火葬停止件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	3指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	3指標
	効果は変わらない指標数	3指標		未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

火葬場は人生の終焉を迎えたときに、最後にただ一度だけ提供される究極の行政サービスであり、故人・ご遺族にとって「別れの場」「葬送の場」となるよう、内部空間や周辺環境にも配慮し、引き続き利用者や市民の方々にも満足感を与える施設となるよう運営管理に努めます。 また、家族形態や宗教意識が変化してきていることから、指定管理者と情報を密にしながら、更なるサービスの向上を目指す必要があります。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	葛生火葬場改修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	衛生施設室				款	4	新規or継続	継続事業
	係					項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	8	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	墓地埋葬等に関する法律、 佐野市火葬場条例、佐野市 火葬場条例施行規則		開始年度	R5	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	－	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	葛生火葬場の火葬設備等の機能を維持するために適切な改修を行う。
------	---------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生火葬場の安定した稼働を維持し、適正な運営を実施する。	（3）目標値		↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
		修繕件数（大規模な故障）	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0	0
		施設開場が出来なかった日数	日	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0	0
		葛生火葬場火葬停止件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0	0

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	葛生火葬場の火葬設備等の機能維持に伴う工事請負費 ・葛生火葬場火葬設備修繕工事 6,699千円 [内容] 火葬炉い号炉の主燃炉及びガスチャンパー室セラミック全面交換、炉内台車耐火物交換、再燃バーナ用バーナポンプ交換、火葬炉制御盤更新等の修繕工事を実施した。 (※事業費については、令和5年9月まで佐野地区衛生施設組合で運営していたため、予算構成が佐野市と違うことより令和4年度は未記入、令和5年度は10月からの半年分を記入。)	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		葛生火葬場の開場日数	日	302	303	305	300
		葛生火葬場火葬件数	件	678	610	588	539
		事業費計	千円	0	8,030	4,378	6,699
		一般財源	千円		8,030	4,378	0
		特定財源（国・県・他）	千円		0	0	6,699
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	・大規模な故障等による稼働停止も無く、安定した稼働を維持し、適正な運営が出来ている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		修繕件数（大規模な故障）	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		施設開場が出来なかった日数	日	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		葛生火葬場火葬停止件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	3指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	3指標
	効果は変わらない指標数	3指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定	
	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

火葬場は市民生活に必要な不可欠な施設であり、災害時を含め、その機能を絶えず安定的に維持していく必要があり、引き続き、施設の状態を確認しながら運営管理に努める。 また、工事の時期が火葬場の繁忙期と重なるため、時期の前倒しが可能か検討する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 火葬炉設備など重要な設備に関して、年次計画をたて、可能な限り火葬場の閑散期に耐火物の交換等の工事や定期的な補修工事を行い、引き続き、設備や建物の状態、今後の火葬状況の推移を注視していく。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	一般廃棄物（し尿）収集運搬業許可業者支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	環境政策課		一般廃棄物（し尿）収集運		款	4	新規or継続	新規事業
	係	環境係		搬業許可業者支援事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	佐野市一般廃棄物（し尿）		開始年度	R7	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり	収集運搬業許可業者補助金		終了年度	R8	事業分類	支援事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全	交付要領					
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	一般廃棄物（し尿）収集運搬業許可業者に補助金を交付する。
------	------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	安定的なし尿の収集運搬業務の継続	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		一般廃棄物（し尿）収集運搬業許可業者数	者	値が大きいほど良い	3				

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	安定的なし尿の収集運搬業務の継続のため、一般廃棄物（し尿）収集運搬業許可業者に補助金を交付した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助金額	千円				3,353
		事業費計	千円	0	0	0	3,353
		一般財源	千円				3,353
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	安定的なし尿の収集運搬業務が継続された。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			一般廃棄物（し尿）収集運搬業許可業者数	者				3	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度からの新規事業ではあるが、許可業者に事前説明を行うことで問題なく実施できた。一方で、し尿処理手数料の改訂については検討する必要がある。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☒ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和8年度は、し尿処理手数料の改訂について検討を行う。
--	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	公衆トイレ維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課				款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	—	事業期間	開始年度	S45	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	—	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	駅南公衆トイレ、唐沢山ポケットパーク公衆トイレの維持管理
------	------------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	駅南公衆トイレと唐沢山ポケットパーク公衆トイレを適切に維持管理する。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		公衆トイレ数	件	値が小さいほど良い	2	2	2	2	2
		業務委託契約数	件	値が小さいほど良い	2	2	2	2	2

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	駅南公衆トイレ、唐沢山ポケットパーク公衆トイレの清掃業務委託 を行った。 駅南公衆トイレの上下水道料、電気料等の支払いを行った。 唐沢山ポケットパーク公衆トイレの浄化槽保守点検等を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		公衆トイレ数	件	2	2	2	2
		業務委託契約数	件	2	2	2	2
		事業費計	千円	1,261	1,117	1,203	1,404
		一般財源	千円	1,261	1,117	1,203	1,404
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	公衆トイレの適切な維持管理	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			公衆トイレ数	件	2	2	2	2	効果は変わらない	○
			業務委託契約数	件	2	2	2	2	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	2指標
	効果は変わらない指標数	2指標		未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

現状維持のため、特になし。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	専用水道等水道施設対策事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンバクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		専用水道等水道施設対策事業費		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	5	義務or任意	義務的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	水道法、栃木県小規模水道 条例		開始年度	H25	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	—	事業分類	許認可・審査事務
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	平成25年度から権限移譲により、水道法に規定される専用水道及び簡易専用水道、並びに栃木県小規模水道条例に規定される小規模水道について、法令に基づく設計の確認、各種届出の受理、立入検査等を行う。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	専用水道及び小規模水道の適正な布設及び管理、並びに簡易専用水道施設の適正な管理を推進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		専用水道施設	施設	値が小さいほど良い	8	8	8	8	8
		小規模水道施設	施設	値が小さいほど良い	18	18	18	18	18
		簡易専用水道施設	施設	値が大きいほど良い	172	172	172	172	172
		給水停止命令件数	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		住んでいる地域が、快適で住みやすいであると思う市民	件	値が大きいほど良い					

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	専用水道水道技術管理者変更届出、記載事項変更届出、管理者届出等の各種届出を受理し、管理を行った。 水道施設8箇所への立入検査を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		各種届出の受理	件	4	3	4	6
		水道施設立入検査	件	11	9	9	8
		給水停止命令件数	件	0	0	0	0
		事業費計	千円	0	2	0	0
		一般財源	千円	0	2	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	良好な生活環境が維持される。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		専用水道施設	施設	8	8	8	8	効果は変わらない	#REF!
		小規模水道施設	施設	22	22	20	18	効果が上がった	×
		簡易専用水道施設	施設	152	169	174	172	効果が上がった	○
		給水停止命令件数	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		住んでいる地域が、快適で住みやすいであると思う市民	件	80.2	79.7	81.8	79.8	効果が下がった	

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	2指標	未達成	未達成	1指標
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定	目標未設定	
	指標全体	効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

給水停止命令に該当する事案がなく、適切に管理されている。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><th>取組説明</th></tr><tr><td></td></tr></table>	取組説明	
取組説明			

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	市営墓地維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課				款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等		目	5	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり		事業 期間	開始年度	S53	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	-	事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						
				佐野市市営墓地条例、佐野市市営墓地条例施行規則					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市営多田墓地（370区画）及び葛生墓地（118区画）の利用許可及び維持管理
------	---------------------------------------

目的 （本事業によって成し遂げたい状態）	市が許可した利用者が、市営墓地を利用できるよう管理する。 市営墓地の適切な維持管理を行う。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		墓地利用許可者数	人	値が大まかいほど良い	488	488	488	488	488
		墓地内の通路等の草刈り	回	値が大まかいほど良い	3	3	3	3	3

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	利用申請に基づき、使用料を徴収し、市営墓地利用の許可を行った。 利用者に対し、管理手数料の徴収を行った。 管理手数料の未払者に対し、督促を行った。 ごみ片付け、草刈りの業務委託により、市営墓地の維持管理を行った。 葛生市営墓地のトイレ清掃について業務委託を行った。 水道料の支払いを行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		新規貸出区画数	区画	2	2	2	3
		墓地内の通路等の草刈り	回	3	3	3	3
		事業費計	千円	1,276	1,534	1,558	1,556
		一般財源	千円				
		特定財源（国・県・他）	千円	1,276	1,534	1,558	1,556
		（うち受益者負担）	千円	1,276	1,534	1,558	1,556

（3）活動による効果

効果説明	市が許可した利用者が、市営墓地を利用することができる。 市営墓地が適切に維持管理される。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			墓地利用許可者数	人	484	482	477	467	効果が下がった	×
			墓地内の通路等の草刈り	回	3	3	3	3	効果は変わらない	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	1指標
	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	1指標
	効果が下がった指標数	1指標
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	指標全体	効果が下がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成		1指標	
	未達成			1指標
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

墓地の管理手数料の未納状況について、改善が図れていない。また、利用許可の承継がすみやかに行われないなどの事例が発生している。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 墓地の管理手数料の未納者へ、引き続き督促を行う。
---	--------------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	水質保全事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		水質保全事業		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	6	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	水質汚濁防止法、佐野市環境基本条例		開始年度	S62	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	-	事業分類	検査・調査事務
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市内の河川の水質調査（通常調査・精密調査）及び市内の調査井戸における地下水の水質調査を行い、水資源における汚染状況を監視する。
------	---

（2）目的		（3）目標値		↓選択して下さい	後期計画				
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	河川水及び地下水の良好な水環境の保全を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		河川水の環境基準達成率	%	値が大きいほど良い	99	95.5	96.0	96.5	97.0
		地下水の環境基準達成率	%	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100
		河川が保全されていると感じている市民の数	%	値が大きいほど良い	83.4	83.8	84.2	84.6	85.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	河川水水質分析業務委託を行い、河川水のモニタリングを行った。 ・市内11河川20地点で通常調査（3項目）を5月、7月、9月、11月、1月、3月に実施 ・市内12河川24地点で精密調査（9項目）を7月、1月に実施 地下水水質分析業務委託を行い、地下水のモニタリングを行った。 ・市内41か所の井戸における年1回の水質分析（13項目）を10月に実施	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		河川水通常検査の対象件数	件	120	120	120	120
		河川水精密検査の対象実施件数	件	50	50	48	48
		地下水調査の実施件数	件	41	41	41	41
		事業費計	千円	1,390	2,016	2,216	2,403
		一般財源	千円	1,390	963		
		特定財源（国・県・他）	千円		1,053	2,216	2,403
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（３）活動による効果		（４）事業効果を説明する数値データの推移							
効果説明	河川水及び地下水の、水環境及び水資源が保全されることにより、良好な生活環境が維持される。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		河川水の環境基準達成率	%	96.2	94.5	96.7	97.1	効果が上がった	×
		地下水の環境基準達成率	%	99.8	100.0	100.0	100.0	効果が上がった	○
		河川が保全されていると感じている市民の数	%	78.2	75.6	78.0	76.3	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	2指標
	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が上がった
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	1指標		
	未達成	1指標		1指標
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

現状維持のため、特になし

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
---	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	水道水未普及地域支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		水道水未普及地域支援事業		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係		費		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	—		開始年度	R2	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	—	事業分類	支援事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	水道水未普及地域の住民に対し、飲用水等の給水施設の整備に対する補助金を交付する。 【対象地域】市上水道給水区域以外の区域→下秋山町、上秋山町、大釜町 【補助率】 補助率：補助対象経費の合計額の3分の2 上限額：100万円
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	水道水未普及地域の住民に対し、給水施設の整備を促進し、衛生的で安心安全な飲用水の安定的な確保を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		未普及世帯数	世帯	値が小さいほど良い	104	104	103	103	102
		補助申請件数	件	値が大きいほど良い	6	5	5	5	5

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	申請に対し、適切に補助金を交付した。(6件) ・給水ポンプ（井戸打ち込み）工事 ・井戸ポンプ交換工事	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助申請件数	件	3	0	2	6
		事業費計	千円	253	0	344	1,531
		一般財源	千円	253	0	344	1,531
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	良好な生活環境が維持され、衛生的で安全で安心できる飲用水が 安定的に確保される。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		未普及世帯数	世帯	107	106	104	104	効果が上がった	#REF!
		補助申請件数	件	3	0	2	6	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標
	目標未達成だった指標数	1指標
効果 (R7と過去3年平均 の指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	0指標
	指標全体	効果が上がった
	費用（R7とR6の事業費計増減）	費用が増加した

※ 10万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和7年度は6件の申請を受けた。定期的に該当町会に補助制度の周知を行い、補助対象者が給水施設の設置や改修を行なう際、円滑な補助金申請に結びつける。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	狂犬病予防事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課			款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係			項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	事業期間	目	4	義務or任意	義務的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり		開始年度	H 1 7	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり		終了年度	－	事業分類	健診・予防事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全					
	基本事業	1	良好な生活環境の確保					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	狂犬病の発生を予防し、公衆衛生の向上を図る。また、犬の正しい飼い方の啓発を行うことにより、人と動物の調和のとれた地域社会の実現を図る。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	飼い主に狂犬病予防注射を受けさせ、狂犬病の感染を防止する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		狂犬病の犬の数／登録している犬の数	%	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0
		予防注射数／登録している犬の数	%	値が大きいほど良い	70	71	72	73	74
		飼い犬等のふんに関する苦情、相談件数	件	値が小さいほど良い	20	19	18	17	16
				値が大きいほど良い					

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	申請に基づき、飼い犬の登録を行い、鑑札を交付した。 窓口での受付、委託により注射済票を交付した。 4月、10月に佐野市獣医師会の協力のもと、集合注射を実施した。 正しい犬の飼い方啓発看板を作成し、交付した。 「正しい犬の飼い方強調月間（10月）」、「正しい猫の飼い方推進月間（2月中）」にペットの適正飼養について啓発を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		狂犬病予防注射接種率	%	70	69	70	70
		事業費計	千円	1,488	1,502	1,397	2,382
		一般財源	千円	0	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	1,488	1,502	1,397	2,382
		（うち受益者負担）	千円	1,488	1,502	1,397	2,382

（3）活動による効果

効果説明	・狂犬病予防注射をしている犬の割合が増加する。 ・飼い犬等のふんに関する苦情、相談が減る。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		狂犬病の犬の数／登録している犬の数	%	0	0	0	0	効果は変わらない	○
		予防注射数／登録している犬の数	%	70	70	70	70	効果が上がった	○
		飼い犬等のふんに関する苦情、相談件数	件	15	12	14	20	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	3指標	効果	効果 1指標	効果 1指標	効果 1指標
	目標未達成だった指標数	0指標				
	効果が上がった指標数	1指標				
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	1指標				
費用（R7とR6の事業費計増減）	指標全体	効果は変わらない	目標達成	達成	未達成	目標未設定
	費用が増加した	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

室内でのみ犬を飼う人が増加し、登録や注射の必要性を認識していない人が増えていると考えられる。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 市HPへの集合注射の記事の掲載や案内はがきの送付を引き続き行い、狂犬病予防注射の接種率の向上を図る。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	環境審議会運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課				款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等		目	5	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり		事業 期間	開始年度	H6	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	－	事業分類	審議会等運営事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	環境基本法第44条および環境基本条例第24条に基づく審議会を設置し、環境基本計画に関すること等を調査審議する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	環境基本計画に関すること等を調査審議することにより、環境を保全し、環境行政の推進を図る。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		住んでいる地域が、快適で住みやすい地域であると思う市民	%	値が大きいほど良い	83	82.5	83.0	83.5	84.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	8月26日（火）（委員14名中10名出席）、10月2日（木）（委員14名中9名出席）、みかもクリーンセンター 2 階会議室において、会議を開催した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会議の開催	回	1	1	1	2
		会議における審議事項数	件	3	2	3	6
		事業費計	千円	91	61	68	0
		一般財源	千円	91	61	68	0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	住んでいる地域が、快適で住みやすい地域であると思う市民が増える。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			住んでいる地域が、快適で住みやすい地域であると思う市民	%	80.2	79.7	81.8	79.8	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成		
	効果が下がった指標数	1指標	未達成		1指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった	目標未設定		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和8年度は、第 2 次佐野市環境基本計画（改訂版）令和7年度実績について報告を予定しているため、スケジュール等を適切に管理する。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し） 検討
- ☐ その他の検討
- ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	生活環境保全事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		生活環境保全事業		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	6	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	公害紛争処理法、栃木県生活環境の保全等に関する条例、佐野市きれいなまちづくり推進条例など		開始年度	S56	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	典型公害（水質汚濁、大気汚染、騒音、振動、悪臭、土壌汚染、地盤沈下）の苦情に対する事業所等への指導と空き地苦情に対する管理者への指導等を実施する。 公害の騒音、振動及び悪臭に係る測定等を実施する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	生活環境（河川、空気、騒音、振動、臭気）が保全される。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		住んでいる地域が快適で住みやすいと感じている市民の数	%	値が大きいほど良い	83.0	82.5	83.0	83.5	84.0
		河川（水路）が汚いと思っている市民	%	値が小さいほど良い	17.0	22.0	21.6	21.2	20.8
		居住地域の生活環境が悪いと思っている市民	%	値が小さいほど良い	13.0	15.0	14.6	14.2	13.8

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	公害等の苦情に対し、公害紛争処理法に基づく相談を行った。 空き地の管理に係る苦情について、適正管理についての指導を行った。 特定施設の工場に立入りをを行い、指導を行った。 環境騒音に係る測定を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		環境騒音の測定	件	7	7	7	7
		公害等苦情の件数	件	82	74	75	92
		空き地の苦情件数	件	75	97	112	95
		事業費計	千円	1,758	227	372	252
		一般財源	千円	1,758	227		
		特定財源（国・県・他）	千円			372	252
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	良好な生活環境が保全される。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			住んでいる地域が快適で住みやすいと感じている市民の数	%	80.2	79.7	81.8	79.8	効果が下がった	×
			河川（水路）が汚いと思っている市民	%	20.1	21.7	20.3	22.4	効果が下がった	×
			居住地域の生活環境が悪いと思っている市民	%	15.6	14.7	14.6	15.4	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	3指標			
	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標			
	効果が下がった指標数	3指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果が下がった	目標達成	達成	未達成
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった		目標未設定		3指標

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

空き地の苦情の件数は減少した一方で、公害等苦情件数は増加した。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 空き地の適正管理について、引き続き周知啓発を図る。
---	---------------------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	自動車騒音常時監視面的評価事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		自動車騒音常時監視面的評価事業		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等		目	6	義務or任意	義務的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり		事業 期間	開始年度	H24	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	—	事業分類	検査・調査事務
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	騒音規制法第18条第1項の規定に基づき、自動車騒音の状況を常時監視する。その結果を同法第18条第2項の規定に基づき、環境大臣に報告する。
------	--

（2）目的

（3）目標値

↓選択して下さい

後期計画

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	自動車騒音の人の健康に与える影響を低減させる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		面的評価点数	件	値が小さいほど良い	17	14	9	20	10
		自動車騒音の環境基準達成率	%	値が大まかいほど良い	96	100	100	100	100
		騒音や振動が気になる市民の数	%	値が小さいほど良い	24	23	23	22	22

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	市内の主要幹線道路において、自動車騒音の常時監視面的評価を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		評価距離	km	48	44	49	41
		面的評価点数	件	9	13	10	17
		事業費計	千円	1,705	1,804	1,848	2,068
		一般財源	千円	1,705	1,804	1,848	2,068
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

（4）事業効果を説明する数値データの推移

効果説明	自動車騒音を監視することにより、良好な生活環境が維持される。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		面的評価点数	件	9	13	10	17	効果が下がった	○
		自動車騒音の環境基準達成率	%	95.2	91.8	93.3	96.2	効果が上がった	○
		騒音や振動が気になる市民の数	%	25.5	22.5	23.3	24.2	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標
	目標未達成だった指標数	1指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	2指標
	指標全体	効果が下がった
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用が増加した

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
目標達成	達成	1指標		1指標
	未達成			1指標
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

現状維持のため、特になし。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明
--	------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	飼い主のいない猫の不妊及び去勢手術支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		飼い主のいない猫の不妊及び		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係		去勢手術支援事業		項	1	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6121	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	—	事業期間	開始年度	R7	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	—	事業分類	現金等給付事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	1	良好な生活環境の確保						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	猫のふん尿等による地域生活環境の悪化の防止を図るため、飼い主のいない猫に実施する不妊及び去勢手術に対し補助金を交付する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	生活環境の保全を目的として行う飼い主のいない猫の不妊・去勢手術の活動を行う者に対し、手術費用の負担の軽減をすることにより、活動が促進され、猫のふん尿等による地域の生活環境の悪化の防止を図ることができる。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		猫の苦情件数	件	値が小さいほど良い	6	6	6	5	5

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	広報さの、市ホームページにて制度の周知を図った。 ボランティア団体を対象に説明会を開催し、制度の周知を図った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		補助金交付申請件数	件				0
		事業費計	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円				0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	飼い主のいない猫の不要な繁殖の抑制と、猫のふん尿等による地域生活環境の悪化の防止	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		猫の苦情件数	件				16	効果が上がった	×

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果 目標達成 目標未設定	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	1指標		達成		
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	1指標	
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果が上がった				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事業を開始したが、申請件数は0件であった。市民への事業の周知方法の工夫や、申請に必要な書類の簡素化について改良を検討することで、申請件数の増加を図る。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 周知や申請方法の改良を検討し、引き続き市民への周知活動を行う。
--	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市河川愛護会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課				栃木県県土整備事業協議会参画事業	款	8	新規or継続	継続事業
	係	管理係					項	3	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等		事業 期間	目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	栃木県県土整備事業会則	開始年度		H17	実施方法	直営	
	政策	1	環境にやさしいまちづくり		終了年度			事業分類	支援事業	
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全							
	基本事業	2	自然環境の保全							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市河川愛護会に補助金を支出して支援する。
------	------------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市河川愛護会を支援することにより、参加団体（町会）による自主的な河川環境保全活動を促進する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		愛護会活動実施延長	k m	値が大きいほど良い	151	151	151	151	151

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	(市の活動) 佐野市河川愛護会に補助金を支出し、愛護会活動を支援する。 (佐野市河川愛護会の活動) 事務局：清掃用のゴミ袋配布、ゴミの収集、支部の計画書・実績報告書のとりまとめ、上部団体である栃木県道路河川愛護会連合会への報告。 支部：清掃活動（年1～3回） 新型コロナ流行の影響で、活動団体が減ったため、令和5年度は予算を減額した。 今後の活動状況により予算を編成していく。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		主な普通河川の延長	k m	86	86	86	86
		事業費計	千円	470	170	470	470
		一般財源	千円	470	170	470	470
		特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0	0
		（うち受益者負担）	千円	0	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明	水害等の発生を未然に防止すると共に、水害等の発生源対策を講じ、良好な生活環境を保全する。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			愛護会活動実施延長	k m	86	86	86	86	効果は変わらない	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標				
	効果が上がった指標数	0指標		達成	未達成	1指標
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	0指標		目標未設定		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない				
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

新型コロナによる自粛期間が明けて、参加団体が増加した。報告書のとりまとめを速やかに行い、適切に補助金を交付していくことが課題である。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ①愛護活動参加団体への活動予定表の送付、受け取り ②愛護活動参加団体への実績表の送付、受け取り ③実績表の集計、補助金額の割り振り ④補助金の支給
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	渡良瀬川クリーン運動協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	都市建設部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	道路河川課				款	8	新規or継続	継続事業
	係	管理係				項	3	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	渡良瀬川クリーン運動協議会規則		開始年度	H19	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	2	自然環境の保全						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	渡良瀬川クリーン運動協議会に構成員として参加し、会費として負担金を支出する。協議会主催の会議に出席し、毎年5月に渡良瀬川一斉清掃を実施する。 ※渡良瀬川クリーン運動協議会とは、渡良瀬川流域の河川環境を確保することを目的とし、渡良瀬川河川事務所、群馬県・栃木県の出先機関、沿川市町、漁業組合を会員として構成する団体である。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	渡良瀬川一斉清掃に市民が参加することにより、河川環境保全の重要性が意識付けされ、河川環境を保全する活動が促進される。	(3) 目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		参加人数（市内）	人	値が大まかいほど良い	400	400	400	400	400
		ゴミ収集量（市内、2 tトラック）	台	値が大まかいほど良い	4	4	4	4	4

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	(市の活動) 渡良瀬川クリーン運動協議会の会員として参画し、負担金を支出。 毎年、5月に市内3箇所を会場に、渡良瀬川一斉清掃を実施。 本年度は雨天により中止。 (渡良瀬川クリーン運動協議会の活動) 会議(1/年)を主催し、渡良瀬川一斉清掃を統括している。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		活動回数	回	2	2	2	2
		事業費計	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	0	0	0	0
		特定財源(国・県・他)	千円	0	0	0	0
		(うち受益者負担)	千円	0	0	0	0

（3）活動による効果

効果説明	清掃活動を行うことによって、渡良瀬川流域の河川環境の確保が図られている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		参加人数（市内）	人	0	0	250	241	効果が上がった	×
		ゴミ収集量（市内、2 tトラック）	台	0	0	3	3	効果が上がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成 (R7と過去3年平均の指標値増減)	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	2指標			
	効果が上がった指標数	2指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標	達成	未達成	
	効果が下がった指標数	0指標	目標未設定	2指標	
指標全体		効果が上がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断		

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

地元町会からの参加人数が前年に比べて増加傾向になっているが、さらに参加を促す活動が必要。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 地元町会への通知の配布
---	-------------------------

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	佐野市渡良瀬川にサケを放す会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課		佐野市渡良瀬川にサケを放す		款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係		会支援事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	—		開始年度	S62	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	R7	事業分類	支援事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	2	自然環境の保全						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	佐野市渡良瀬川にサケを放す会に補助金を交付し、サケの稚魚の一斉放流活動を支援している。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市渡良瀬川にサケを放す会の活動を通して、自然保護活動と環境学習を推進する。具体的には、渡良瀬川の浄化を目指すとともに、サケを育て観察し触れ合うことをとし、生き物を育てる心を養い、自然を愛し、親しみ、守ることの意識の向上を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		自然環境が良好と考えている市民の割合	%	値が大きいほど良い	67.3	68.2	69.1	67.0	67.9

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	佐野市渡良瀬川にサケを放す会の活動が困難となったため、補助 金の交付は行わなかった。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		サケの卵の配布回数	回	1	1	0	0
		サケの稚魚の配布回数	回	1	1	0	0
		事業費計	千円	28	28	0	0
		一般財源	千円	28	28	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	豊かな自然環境が保全、再生されている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			自然環境が良好と考えている市民の割合	%	67.0	68.1	66.1	65.5	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果		
	目標未達成だった指標数	1指標			
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成	達成	効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	効果が変わらない
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		効果が下がった
	指標全体	効果が下がった			
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断		

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

近年の気候変動により、事業継続が困難であることから、渡良瀬川にサケを放す会が活動休止となったため、令和7年度をもって事業終了とした。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）

☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）

☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討

☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討

☐ その他の検討

☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	外来カミキリムシ類対策事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	環境政策課				款	4	新規or継続	継続事業
	係	環境係				項	1	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等		目	6	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	佐野市外来カミキリムシ類被害木伐採費補助金交付要綱、佐野市外来カミキリムシ類被害対策会議設置要綱	事業 期間	開始年度	R5	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	－	事業分類	現金等給付事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	2	自然環境の保全						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害に対し、防除用の薬剤やネットの貸出、また、被害木に対する伐採費等の補助を行う。 【補助内容】 被害木の伐採、運搬、処分費に対する補助。（営利法人以外の団体） 支出金額×5/6（上限20万円）、（個人） 支出金額×5/6（上限10万円）
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	クビアカツヤカミキリの拡散が抑えられ、市内での認知件数が減少する。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		被害樹木	本	値が小さいほど良い	1229				
		被害樹木伐採報告本数	本	値が大きいほど良い	205				
		防除用の薬剤配付及びネット貸出の申請	件	値が大きいほど良い	90				
		補助金交付申請件数	件	値が大きいほど良い	45				

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 （R7年度に行った主な活動内容）	申請に基づき、防除用の薬剤の配付及びネットの貸出を行った。 被害木の伐採費等に対し補助金を交付した。 広報との、佐野市ホームページ、チラシにより注意喚起を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		防除用の薬剤配付及びネット貸出の申請	件		82	55	53
		補助金交付申請件数	件		54	45	53
		事業費計	千円	0	11,424	21,998	13,030
		一般財源	千円		6,616	10,509	9,004
		特定財源（国・県・他）	千円		4,808	11,489	4,026
		（うち受益者負担）	千円				

（3）活動による効果

効果説明	特定外来生物クビアカツヤカミキリ対策の必要性が理解され、被害樹木が減少する。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		被害樹木	本			799	1229	310	効果が上がった	○
		被害樹木伐採報告本数	本			259	205	331	効果が上がった	○
		防除用の薬剤配付及びネット貸出の申請	件			82	55	53	効果が下がった	×
		補助金交付申請件数	件			54	45	53	効果が上がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	3指標	効果	効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	1指標		効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	3指標		効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標		効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	効果が下がった指標数	1指標		効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
効果 （R7と過去3年平均の指標値増減）	指標全体	効果が上がった	目標達成	達成	3指標	1指標
			目標未設定	未達成		
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった					

※ 1 0 万円以上の増減により判断

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

防除用の薬剤について、薬剤の種類ごとに申請の偏りがあり、要望どおり貸し出しできないことがあった。購入数の見直しが必要。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 令和7年度は、リバイブ薬剤の要望が多い一方で、ウッドスター薬剤やネット等の申請は少なかった。引き続き防除の必要性を周知することで、薬剤防除の件数増加を図るのに加え、薬剤の購入数を見直すことで業務の効率化を検討する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	森林環境学習事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	市民生活部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	環境政策課				款	4	新規or継続	継続事業	
	係	環境係				項	1	市単独or国庫補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等		目	4	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり			事業期間	開始年度	H21	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度	—	事業分類	イベント等開催事業	
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全							
	基本事業	2	自然環境の保全							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	森林観察会、生き物観察会等を開催する。
------	---------------------

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	森林観察会、生き物観察会等を通して、自然環境に対する意識の高揚を図り、環境保全の重要性・大切さを理解してもらう。	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		講座の開催回数	回	値が大きいほど良い	4	5	5	5	5
		自然環境が良好と考えている市民の割合	%	値が大きいほど良い	66	67	67	68	68

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	ホタルの観察会、森林観察会、セミの羽化観察会、野鳥の観察会を実施した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		森林観察会の参加者数	人	0	35	35	20
		生き物観察会の参加者数	人	45	90	44	89
		事業費計	千円	215	350	184	249
		一般財源	千円				
		特定財源（国・県・他）	千円	215	350	184	249
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	自然環境を大切にしたい心が育成される。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			講座の開催回数	回	2	4	3	4	効果が上がった	○
			自然環境が良好と考えている市民の割合	%	67	68	66	66	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果		
	目標未達成だった指標数	0指標	効果が上がった	効果が変わらない	効果が下がった
	効果が上がった指標数	1指標	目標達成	達成	1指標
	効果は変わらない指標数	0指標		未達成	
	効果が下がった指標数	1指標	目標未設定		
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない			
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市民の自然環境を大切にしたい心の育成を図るため、開催回数の増加や、参加者募集のための周知方法について工夫・改善が必要。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☒ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 参加者は予定どおり確保できたが、引き続き広報を強化する。
---	--

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	とちぎ環境・みどり推進機構参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	農山漁村地域整備				とちぎ環境・みどり推進機構参画事業	款	6	新規or継続	継続事業
	係	森林整備係					項	2	市単独or国庫補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等		目	1	義務or任意	任意の事業	
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり		事業期間	開始年度	S25	実施方法	直営	
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全							
	基本事業	2	自然環境の保全							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	栃木県内の市町や林業関係団体等が会員となって、県域の緑づくり・森づくり業務、林業労働力対策に取り組む団体として、森林の保全・整備事業や林業労働力の確保・育成事業などを実施している。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	緑づくりの普及啓発により森林を守り育て、またみどりを大切にすることへの理解の促進、市民協働による森づくりの推進。森林施業技術習得への支援などを行うことにより、安定的な林業労働力の確保を目的とする。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		市内民有林の木材伐採面積	ha	値が大きいほど良い	160	170	180	190	200

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	森林・山村多面的機能発揮事業の情報の提供 『森林経営管理制度事業』等の研修会	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		会員数	人	106	105	105	104
		事業費計	千円	61	61	61	61
		一般財源	千円	61	61	61	61
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	森林整備に関わる啓発活や理解促進による森づくりを推進、各種サポート事業により、国土の保全と林業基盤の整備を図るもので、緑化の推進、森林経営管理事業の推進、林業労働力の確保育成に結びつくものである。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		市内民有林の木材伐採面積	ha	308	203	149	219	効果が下がった	○

（4）事業効果を説明する数値データの推移

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	1指標
	目標未達成だった指標数	0指標
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標
	効果は変わらない指標数	0指標
	効果が下がった指標数	1指標
	指標全体	効果が下がった
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し

※ 1 0 万円以上の増減により判断

		効果		
目標達成		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	達成			1指標
	未達成			
目標未設定				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

今後ますます高まる森林整備の必要性の啓発を行い、里山林の整備等を市民の参画や協働により進めていく。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	<table><tr><td>取組説明</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">森林の持つ機能を市民に理解いただき、今後ますます高まる森林整備の必要性の啓発を行い、里山林の整備等を市民の参画や協働により進めていく。</td></tr></table>	取組説明		森林の持つ機能を市民に理解いただき、今後ますます高まる森林整備の必要性の啓発を行い、里山林の整備等を市民の参画や協働により進めていく。	
取組説明					
森林の持つ機能を市民に理解いただき、今後ますます高まる森林整備の必要性の啓発を行い、里山林の整備等を市民の参画や協働により進めていく。					

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	森林等ナラ枯れ被害対策事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1．基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	農山村振興課				款	6	新規or継続	継続事業
	係	森林整備係				項	2	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり			開始年度	R4	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	2	自然環境の保全						

2．事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	森林病虫害等防除法に基づき、令和４年度に新たに本市で発生が確認されたナラ枯れ被害に対して、まん延防止対策を実施する。
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	ナラ枯れ被害樹木に防除対策を実施し、健全で木材生産機能の高い森林を創出する	（3）目標値	↓選択して下さい		後期計画				
		効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		対策樹木本数	本	値が小さいほど良い	50	4	4	4	4
		市内民有林の木材伐採面積	ha	値が大いほど良い	160	170	180	190	200

3．前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に行った主な活動内容)	ナラ枯れまん延防止のため、被害が確認された樹木に対する防除対策を実施 葛生森林公園 4本 業務委託	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		対策樹木本数	本	42	12	6	4
		被害樹木本数	本	42	12	6	4
		対策樹木本数/被害樹木本数	%	100	100	100	100
		事業費計	千円	1,078	1,416	932	484
		一般財源	千円	0	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	1,078	1,416	932	484
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	被害の報告を受けた樹木について、適正な方法により処理することができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		対策樹木本数	本	42	12	6	4	効果が上がった	○
		市内民有林の木材伐採面積	ha	308	203	149	219	効果が下がった	○

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	2指標	効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	目標未達成だった指標数	0指標		1指標		1指標
	効果が上がった指標数	1指標				
	効果は変わらない指標数	0指標				
	効果が下がった指標数	1指標				
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	指標全体	効果は変わらない	目標達成	達成	未達成	目標未設定
費用（R7とR6の事業費計増減）	費用は下がった	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4．次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和４年度からナラ枯れ被害樹木の防除対策を継続して行っているが、対策が必要な樹木が減少した。ナラ枯れ対策は栃木県と連携した取り組みが必要であることから、市内公共施設における被害状況の把握し適切な処理を行い、市内及び県内へのまん延防止対策を行う。
--

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☐ その他の検討 ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 栃木県の対策方針及び、市内の被害状況の把握と情報共有を行い対策を継続する。
---	---

仕事の振り返りシート（令和7年度実施分）

事業名	明るく安全な里山林の整備事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約①	5-④	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs		該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	農山村振興課				款	6	新規or継続	継続事業
	係	森林整備係				項	2	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等	事業期間	目	2	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	とちぎの元気な森づくり市町村交付金交付要綱		開始年度	H20	実施方法	直営
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度		事業分類	支援事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	2	自然環境の保全						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	とちぎの元気な森づくり県民税事業を財源として、森づくり団体が事業主体となって里山林を再生させる森林整備事業を実施する。
------	---

（2）目的

目的 (本事業によって成し 遂げたい 状態)	里山林の持つ景観保全機能や自然とのふれあい機能の向上、農作物の野生獣被害軽減を図る	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11
		里山林の整備面積	ha	値が大きいほど良い	100	100	100	100	100

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)	里山林管理事業：交付期間満了分 1 2 団体 89.2ha	活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		申請団体数	団体	17	16	14	12
		事業費計	千円	5,489	5,223	4,555	4,460
		一般財源	千円	354	268	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	5,135	4,955	4,555	4,460
		（うち受益者負担）	千円				

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明	整備面積が減少傾向にあるが、地域の自主的な協力により、自然環境・環境保全・景観の維持などの多様な効果が表れている。	（4）事業効果を説明する数値データの推移	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
			里山林の整備面積	ha	102.7	99.1	91.1	89.2	効果が下がった	×

（5）目標達成、効果、費用増減（自動判定）

目標達成	目標達成した指標数	0指標	効果	効果			
	目標未達成だった指標数	1指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標		目標達成	達成		
	効果は変わらない指標数	0指標			未達成		1指標
	効果が下がった指標数	1指標		目標未設定			
	指標全体	効果が下がった					
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用の増減無し	※ 1 0 万円以上の増減により判断				

4. 次年度に向けた検討

（1）令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

近年、有害鳥獣の出現数が増加している。里山林の整備を行うことで、その対策につながることから地域住民の理解と協力により活動の充実を図る。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成） ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む） ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討 ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討 ☒ その他の検討 ☐ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 森林の有する機能や役割についての啓発や、事業の周知を充実させ活動団体の増加を検討する。
---	---

事業名	葛生森林公園管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約①	該当なし	市長公約②	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり		コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部		予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	農山村振興課				款	6	新規or継続	継続事業
	係	森林整備係				項	2	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	6122	名称	根拠法令、条例等	事業 期間	目	1	義務or任意	任意の事業
	基本目標	6	美しい自然、環境と調和するまちづくり	佐野市葛生森林公園条例		開始年度	H8	実施方法	一部委託
	政策	1	環境にやさしいまちづくり			終了年度		事業分類	施設維持管理事業
	施策	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全						
	基本事業	2	自然環境の保全						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	森林による緑豊かな生活環境・自然環境の保全を図り、森林レクリエーションや自然体験学習、健康づくりの場を提供するため、公園内の除草及びトイレ清掃の委託、浄化槽管理の委託を行う。
------	---

(2) 目的

(3) 目標値

↓選択して下さい

(2) 目的		(3) 目標値		↓選択して下さい		後期計画				
目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	葛生森林公園を市民が快適かつ安全な利用できる状態に維持し、豊かな自然生態系の保全、再生を図る。	効果指標	単位	指標の性質	R7	R8	R9	R10	R11	
		施設に安全性に対する苦情	件	値が小さいほど良い	0	0	0	0	0	

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R7年度に 行った主な活 動内容)		活動指標	単位	R4	R5	R6	R7
		施設の修繕件数	件	1	1	1	1
	葛生森林公園の維持管理 ・公園内の除草業務委託 16,069㎡（7月～10月） ・トイレ清掃業務委託 トイレ清掃 週1回 ごみの運搬 月1回 ・浄化槽管理業務委託 定期点検						
		事業費計	千円	1,582	1,179	1,647	1,302
		一般財源	千円	53	463	1,647	1,302
		特定財源（国・県・他）	千円	1,529	716		
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明	葛生森林公園の安全な利用を確保するために必要な維持管理業務を委託により実施し、快適な利用を確保している。	効果指標	単位	R4	R5	R6	R7	過去比較	目標達成
		施設に安全性に対する苦情	件	0	0	0	0	効果は変わらない	○

(5) 目標達成、効果、費用増減 (自動判定)

目標達成	目標達成した指標数	1指標	効果			
	目標未達成だった指標数	0指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
効果 (R7と過去3年平均の指標値増減)	効果が上がった指標数	0指標	目標達成 達成 未達成 目標未設定	1指標		
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果は変わらない指標数	1指標				
	効果が下がった指標数	0指標				
	指標全体	効果は変わらない				
費用（R7とR6の事業費計増減）		費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和7年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

葛生森林公園の安全な利用を確保するために必要な業務を委託により実施している。ナラ枯れによる被害木がみられることから、今後継続的な対策を講じる。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和8年度及び9年度の取組

- ☐ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成）
- ☐ 事業費の見直し検討（新たな歳入確保・受益者負担含む）
- ☐ 業務の効率化・高度化（デジタル化）検討
- ☐ 業務の効率化（デジタル化以外の業務手順・手法の見直し）検討
- ☐ その他の検討
- ☒ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	
ナラ枯れによる被害木がみられることから、今後継続的な対策を講じる。	